



図書館だより

2026 年
9 月 30 日発行

秋草学園高等学校 図書館

9 月は桔梗祭やシルバーウィークでテンションのあがる月でしたね。桔梗祭で図書委員会の生徒が POP を書きました(ブックロード★2026)。そこで推薦した本を引き続き図書館で展示しています。本の表紙が見えるように置いてありますので、POP の推薦文とともに大変探しやすくなっています。もちろん貸出しもできます。

東野圭吾さん

東野圭吾さん(以下敬称略)の訃報に接し、当館の書架を見直し、著者の企画展示の数がすごいことにびっくり。

ここでは直近の「2026 夏が好き！本が好き！！」「ブックロード★2026」「図書委員会新聞本の虫だより」でおすすめされている本を紹介しします。解説はそれぞれの推薦者の言葉です(抜粋で申し訳ない)。

『白夜行』(集英社/B913.6-ヒ)

とても珍しい形式で書かれていて、小説の中に主人公たちの視点は一度も入りません。..... 壁ドンもバックハグもなければ、キュンキュンときめくセリフも無い。それでも、読み終わった時には、この世にこれ以上の恋はないのだなあ、と嘆息することになるでしょう。

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』(角川書店/913.6-ヒ)

「ナミヤ雑貨店」という店から時空を超えてつなぐ手紙と廃墟に忍び込んだ 3 人の者たちの運命が交錯していく物語です。過去から届く手紙を通じて 3 人の心情が変わっていく様子が魅力です。

『あなたが誰かを殺した』(講談社/913.6-ヒ)

職場の先輩から紹介された警視庁捜査一課の警部である加賀恭一郎と共にそこへ向かい真相を解き明かしていく。加賀は言う。誰かが嘘をついていると。

『分身』(集英社/B913.6-ヒ)

北海道へ行き、現地で双子でもないのにそっくりな“もう一人の自分”を知ります。なぜ、二人はそっくりなのか、なぜ母親は不審な死を遂げたのか。母親の温かみやいろいろなことを考えさせられるシーンが多く、ぜひ皆さんにもよんでいただきたいです。

東野圭吾 シリーズ物

著者の作品数は 100 タイトル以上あるそうです。当館には、冊数にして 145 冊の東野圭吾本があります。特定の人物を主人公としたシリーズもたくさんあります。そのうちの、映像化されている 3 シリーズの第 1 作を紹介しします(年は発表年)。

『卒業 雪月花殺人ゲーム』

(加賀恭一郎シリーズ/1986 年/講談社/B913.6-ヒ-1)

『探偵ガリレオ』

(ガリレオシリーズ/1998 年/文藝春秋/B913.6-ヒ)

『マスカレード・ホテル MASQUERADE HOTEL』

(マスカレードシリーズ/2011 年/集英社/913.6-ヒ-1)

東野圭吾の主なシリーズ・加賀恭一郎シリーズ



- ・ガリレオシリーズ
- ・クスノキシリーズ
- ・五代努シリーズ
- ・ブラック・ショーマンシリーズ
- ・雪山シリーズ
- ・ラプラスの魔女シリーズ

新着コーナーの気になる本

『永遠の記憶』(東野圭吾/文藝春秋/913.6-ヒ)

ガリレオシリーズの最新作にて、筆者ご逝去後の出版となりました。シリーズ 4 作目からの相棒、内海薫が刺された！犯人とおぼしき者はいれども、謎は深まるばかり。これが本当に最後の作品なのかと、日本中で注目の的となっています。

□ 司書の今月はこの本読みました

本を読まない司書ですが、映画館にはよく行きます。今夏の『あの星が降る丘で、君とまた出たい。』(汐見夏衛/スターツ出版/B913.6-シ)の予告で涙しました。これは『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』(同前)の続編です。こちらも予告だけで泣いたっけ。汐見夏衛さんは「泣かせる」力を持っているんだ……。ということで、新着の『たとえ祈りが届かなくても君に伝えたいことがあるんだ』(汐見夏衛/KADOKAWA/B913.6-シ)を読みました。これは、「タイムリープ物」です。『東京リベンジャーズ』や『転生したらスライムだった件』でも扱っていますね。何度も同じ時間に戻り、「クラスメイトの死の回避」を目的とします。主人公は「何事も誰もがが無難な行動をするのは当たり前」と考えつつ、理想に近づく試行錯誤をし、「普通であること」は「普通」ではないと気がつきます。普段「普通」を多用する私自身、身につまされました。主人公は、たとえ理想に到達できなくても、自分の歩んだ過去は無駄ではない、未来も無駄にしないと決意します。汐見さんは、泣かせるだけでなく、人の内面の変化を書くのもお上手なんですね。ひとつ文句があるとすると、「汐見さん、タイトル長すぎるう」です。【横関】